

令和4年度 第5回白井市市民活動推進委員会（全体会）

日時：令和5年1月16日（月）

午前10時～正午

場所：白井市役所東庁舎3階 会議室302～304

【事務局説明】

○委員長 どうもありがとうございました。最初に触ればよかったのですが、一応今日の議論の確認としては、これまでの会議の中で、支援補助金についていろいろと改善したほうがいいんじゃないかという御意見があったので、前回まとまった時間を設けて、それについて意見出しをいただきましたと。

今日の会議は、その意見で出てきた指摘とか、こういうことを調べておいてよという宿題に対して、市の事務局のほうから宿題返しが来ている状況で、これを受けて、今後どうするかというのを議論する会議となっております。そういう一步一步進んでいるということをお願いいたします。

では、この資料1、2、3につきまして、何かもうちょっと聞きたいこととか御意見とかがあれば、随時お願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

どうぞ、さん。

○委員 ●でございます。前回、欠席して申し訳ございませんでした。

私、今回の資料を見させていただきまして、特に資料3のほうの、今日のテーマは市民活動支援補助金が現状のままでいいのかどうかというのを検討される場じゃないかなと思っておりますが、白井さんの市民活動団体支援補助金についてを読ませていただきまして、私が一番説得力があるなと感じたのは、しろいワクワクひろばさんのコメントに対して、非常に説得力があるなというふうに感じさせていただきました。市の公金を使った補助金でありますので、それにふさわしい活動をされている団体さんには、十分行き渡るようにしたほうがいいと思います。それにふさわしい活動をされている団体さんに支給するのが本当じゃないかなと思います。こういうふうにもいろいろすごい敷居が高い、ハードルが高いというのは持たれると思いますが、それに応えられるように団体さんのスキルアップしていくことによって、活動自体もすごくいい活動をされる団体さんになるのじゃないかなと思ひまして。あんまり高過ぎるというのはまずいと思いますが、ある程度の団体さんがスキルアップしていけるような基準とか理由というのは必要じゃないかなと感じさせていただきました。すみません、私の感じたことを述べただけで。

○委員長 大丈夫です。感想とかでも全然構いませんので。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。このままだと11時で終わっちゃいます。誰かコメントとか感想とか御自由に。

●さん、どうぞ。

○委員 私も前回休ませていただいたので、これを初めて見て感じたのですが。申請書類が難しいのは当然かなと思っていました。さっき●さんがおっしゃったように、公金を使うに当たって難しいと感じられるのは、多分そういうことに関わっていない方々が市民活動をされているのであるのだなと。逆に、それは素晴らしいなと思ったりもします。

ですので、まちサポさんのほうで、書類上こうやってやったらいいよというのは、ずっとお休みもなく働いていらっしゃるのであれば、できることだろうなと。それが求められているのがまちサポさんだろうなというのが、今までの会議でもずっと出ていたかなと思うので、そこはもうちょっと強めにやっていただければありがたいと思います。

市民活動というのは、多分ほかに仕事を持っていられちゃったりとかして、その合間に、皆さんのためにと考えて活動をされている方がほぼほぼなんじゃないかなと思いますので、そういう、やるぞみたいな、みんなのためにやるぞみたいな気持ちをどこかで潰さないようにできればいいよなんて思いました。感想です、すみません。

○委員長 ありがとうございます。

どうぞ。

○事務局 事務局も、当初ヒアリングをする前というのは、補助金の金額が安過ぎるのでとか、補助限度額がもう少し高くしていただけないとか、あとは、申請書類が煩雑だ、複雑だといったような御意見というのが、すごくたくさん上がるのではないかというような気がしてというか、そういう想定で、実際にヒアリングに臨ませていただいたのですが、けれども、ふたを開けてみると記載のとおりで、地域をよくしていきたいというふうに団体の方も思っている中で、やっぱり一定のルールというのは、やらなければいけないというのがあるというのを分かった上で御発言をいただいているので。

今言ったように、書類の申請についても、自分たちは、この後自立して、なるべく自分で資金を得られるようなことを考えていくというようなことが、ワクワクひろばさんの御発言になっているかと思います。ですから、正直こういった御発言がいただけるというのは、ヒアリングをして初めて知ることができたというのが一つ。あと、まちサポを通して、こういったヒアリングというのは今までやったことがなかったものですから、団体の中でも、意見交換やってみて、よかったねみたいな雰囲気は、こちら7時から9時とかという時間でやったにもかかわらず、皆さんに持っていただけたのかなという印象があります。

ですから、今事務局のほうで考えていたのは、こういったヒアリングというのは、先ほど●のほうからもありましたけれども、この補助金についてのみではなくて、ほかのテーマであっても、今後、継続的にやっていったほうが良いのではないかというのは感じた次第でございます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

私も、資料3の今日の感想というところの一番右の列に書いてありますけれども、参加してよかったとか、先ほど●さんからの話でありましたけれども、うわさのステップの代表の方とつながれてというお話がありましたし。

ちょっと残念なのは、これまで開催がなかったというか、来年度から指定管理制度導入という、この時期になっちゃったというのは、若干残念ではあるけれども。でも、始めた日が吉日ということで、これを機に、指定管理者制度になっても、しっかりこういったことを続けていっていただきたいなと思います。

ほかの方がいかがでしょうか。

どうぞ、●さん。

○委員 どうもお疲れさまでした。ヒアリングの関係、非常に興味深く聞かせていただきました。

ヒアリングの対象者のサンプルの取り方なのですけれども、この補助金制度を上限いっぱい十分にお使いになった団体が、今回は対象だったということなので、その点では、多分コメントに、若干あんまり使いきれなかった他の団体とは違った傾向が、当然ながらあるのではないかと考えております。研究調査の観点でいうと、十分にお使いになれなかった団体もある程度、調査対象に入れて、その意見も参考にすると、より一層、認識を深められるのではないかと若干思ったところです。調査設計上の何か知見が必要とあれば、また御相談いただければ、そういったこともアドバイスできるかなと思っています。

この調査には、こうしたややバイアスがかかっていると思いつつも、参考になるものと思います。まんぷく食堂さんのコメントなどは、私自身も特に共感できまして、市内の団体間のコラボの可能性ということが、こういったヒアリング調査を契機にしながら高まるということがあるということですごく思いました。ですので、こういったヒアリングだとか、振り返り、あるいは検証、あるいはアセスメント的な調査分析の取組そのものが、市民連携を進めていく活動それ自体とつながるのだということなのだと思います。

つまり、何が言いたいかというと、市内の既存の団体間のマッチングの可能性はすごくたくさんあるのではないかとことです。白井市に関してはいろいろな取組をされているので、現場も私、昨年伺わせてもらいましたけれども、この可能性はすごく感じます。しろいワクワクさんも別の行政セクションで一生涯学習でしたかねー、その部署の事業取組で活動された方が、市民連携としてのこの取組にやっぱり参画されているわけです。ですので、そういったことを考えると、この取組を通じて、先ほどマッチングのお話が出ていましたけれども、今後市内の活動団体間のコラボを促進していくとか、そういった取組にどんどん展開していくといいのだろうなと思うのです。

そのために重要なのは、まちサポさんがいますので、そこがハブになるということもあります。同時に、この助成金を受けられた団体が、それぞれ多様な、いろいろな取組団体だとか取組者がいますので、主体的・自主的に相互間に組織化していくというのが大

事だと思うのですね。もちろんそれは、それぞれ団体の特徴を薄めて一緒にやろうね、という意味じゃなくて、各団体がそれぞれユニークないろいろな取組をやっているの、それはそのまま応援しつつ、その多様な持ち味を生かしてコラボしていくみたいな、そのような組織化が必要かなと思います。そういった場の形成というか環境を積極的につくっていくというのが、今後、白井市の市民連携活動を促進していく際に、すごく有効なんじゃないかなというふうに思います。そういうマッチング調整の組織があってもいいと思いますし、こういった研究分析みたいなものを、そういった活動・取組者そのものも巻き込んで参加型でつくっていくということが大事ではないかと。今回もヒアリング後の展開として、ICT関係の勉強会をするということとなったとのことですけれども、そういった活動の波及展開の可能性がより一層高まると思うのですね。

私もNPOの理事長をやっているのですけれども、地域で活動をしていく際に、最初、1組織とか2組織とかで、例えば環境の保全活動だとか子供たちの育成支援活動とかやるのですけれども、だんだん積み上がっていくと、展開させるためにはいろいろな組織といますか、いろいろな団体とつながりを深めるのですね。団結していく際に、それぞれの活動団体のユニークさを薄めちゃうと意味がないので、それをそのまま保持しながら、つながり合っていくということをやって、活動を発展させていきます。

先ほどまんぷく食堂さんも、学習支援のほうはステップさん、そこに得意としている子ども食堂活動をコラボすると、さらにこういった企画ができるんじゃないかみたいな、発想ですね。その手の取組がどんどん展開できると素晴らしいと思うのですね。そんなような方向に持っていけるような、そういう助成金活動といいますか、そういうような可能性があるのでなと思いました。多分そんなことを見越して、何か助成金なり補助金なりの支援制度設計をするというのかなというのを非常に感じたところです。長くなりました、すみません、よろしくお願いします。

○委員長 どうもありがとうございます。

確認なのですけれども、この調査の6サンプルの団体さんは、必ずしも全部が補助金使っていたわけじゃないですよ。

私も御指摘があって、多分属性とか、どういう割付でヒアリング対象にしたのかの記載がないから、ちょっと分かりづらかったかなと思うのですけれども、そこを一応補足していただけますか。

○事務局 こちらなのですけれども、この市民活動の補助金を一度も受けたことがない団体、活動促進型を受けて活動発展型に移行していない団体、活動促進型、活動発展型を全て申請し、採択をされた団体という、この三つのパターンで、本当は10団体程度をお声がけをさせていただき、2回に分けてヒアリングができればと当初考えていたのですけれども、欠席があり結果6団体になりました。

まず、まんぷく食堂につきましては、促進型を受け発展型に移行していない団体。し

い d e あそ部につきましては、補助金を受けたことがない団体。s k e t c h 倶楽部につきましては、令和4年度なんですけれども、促進型を1度受けた団体。ステップ、しろい環境塾、ワクワクひろばは、全て補助金を受けた団体というようなことで、補助金を受けた団体のほうが割合として多くなってしまったというような状況は確かにございます。

ただ、声をかけさせていただいた時点では、バランスよく2団体ぐらいつつ、お声がけをさせていただいたのですけれども、どうしても時間が合わないというようなことで御欠席をされてしまっているのも、先ほどもお話をさせていただいた、これ1回きりで終わらせるつもりございませんので、次回以降に声かけはさせていただき、また同じような形でニーズの調査みたいなものができればというふうには考えております。

以上です。

○委員長 ということなので、ごめんなさい、これ書いておいたほうがいいですね。

○委員 すみません、私認識が違っていたかもしれません。となりますと、市民団体活動支援補助金に直接関わっていない団体も入っているということですか。

○事務局 今回は1団体になってしまいましたが、もう1団体、お声がけをさせていただいて、来ていただくように調整はしました。けれども、結果的に欠席になってしまったといった状況です。

○委員 むしろ、その市民団体活動支援補助金のことが今ベースになっているので、その支援補助金を様々なパターンで受けられた団体がサンプルで、いろいろと話が聞けて、こんな傾向があるというのが整理できると、より明確になるのかなと思ったところだったので。すみません、当初の理念といいますか、指摘事項というのは、そこにひもづいたお話です。分かりました。

○委員長 ありがとうございます。

ほかの方どうでしょうか。

●さん、どうぞ。

○委員 ●でございます。

前回のときに、私のほうから宿題といいますか、これどうなっているのというところの回答が、資料1の一番最後のところですね。4ページのところに記載をさせていただいているのかなと思っておりますけれども。

促進型だけということで、5団体ということで、私の所属している団体も入っているのですが、上の五つのほうが、その後、発展型のほうにもつながっているというような団体さんということの御紹介がありました。

促進型、私のところの団体でいいますと、リアル訓練のところなのですが、発展型のほうでも一応申請はしたのですが、途中でコロナの関係があって辞退をしたという形で、その後コロナの関係で、ずっと発展型のほうに申請ができていないというようになっております。

前回ちょっとお話をさせていただいたのが、発展型については、5年間のうちの3回補助金が出ますよというようなお話があったかと思うのですが、私どものほうの防災リアル訓練に関しては、発展型がまだ1回も申請していませんので、途中間が空いても、また5年がスタートできるのかなと思ってはいるのですが、5年間のうち1回は受けて、コロナで潰れちゃってといった場合、結果的に3回を受けるのに、1回目があって、3年潰れちゃって、5年目のときに2回目がやっと受けられたとかいう場合に、何か経過措置的なものはということでもちょっとお話をさせていただきましたので、その辺も御検討いただければありがたいかなと思っております。

それと、しろいさんのほうのヒアリングですね。これを見させていただいて、ああ、やはりそれぞれの活動をしている団体さん、先ほど●委員のほうもありましたけれども、マッチングができてよかったなと思っていますので、今後も続けていただきたいなと思っていますし、この中で出てきた話題で、もう2月にオンラインがすぐ実行できるということで、大分頑張っていらっしゃるのだなと。すぐ実行に移していただいて、ありがたく思っております。

それと、白井市の場合に、まちサポ、市民団体の登録になっている方たちの窓口としてありますが、市内でいろいろな活動をされている方、活動というか、個人でされている方もいらっしゃるでしょうし、社会福祉協議会のほうのボランティアセンターの登録の方とかという、まだ組織としてそんなに大きくないのだけれども、大きいところもあると思うのですが、という個人、団体の方、ボランティアセンターで持っている情報と市民活動のほうの持っている情報、この辺をうまく利用、共有できるようなものがあれば、そちらの関係でもマッチングができるでしょうし、その後の市民団体として登録をして、このような補助金というところ、または、その同じような活動をされているところのマッチングができるのではなかろうかなと思いますので、ボランティアセンター関係のほうも、今後調べながらという大変ですが、情報を共有しながらやっていっていただくといいのかなというふうに思っています。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

何か事務局からコメントありますか。

○事務局 それでは、今3点あったかと思うのですが、主に1点目と3点目について回答をさせていただければと思います。

まず1点目なのですが、前回、●委員から、5年のうちの3回という発展型の補助の受け方で、コロナという未曾有の事態で、そこについて何かフォローできるようなケアをとというようなことを前回で宿題で言われておりましたので、こちらのほうで確認をさせていただきました。

確認をさせていただいたところ、今言ったように、採択を受けて5年目になってしまう

というような団体がありませんでした。ですので、現在のところ、コロナが理由で、活動発展型を1回受けていて、5年たってしまうというような、この経過をフォローが必要な団体というのは、ないということが分かりましたので、その旨御報告をさせていただきます。

次に3点目、まちサポとボランティアセンターのマッチングみたいなものというのは、今まちサポさんに確認させていただいたところ、そういったのも、今のところはない。ただ、まちサポにも登録をされていて、ボランティアセンターのほうにも登録をしている団体はあるというようなことなので、そういったところも少し調べをさせていただいて、今後ここで意見の上がっているようなマッチングみたいなものの検討もさせていただければと考えております。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

●さん、どうぞ。

○委員 ちょっと確認というか、こういう可能性があるのかどうかという質問なのですが、先ほどのマッチングというかコラボ、市民団体同士の取組を契機とした市民団体同士のネットワーク組織化みたいな話ですね、そういう可能性なのですが。今のお話もちょつとつながってくると思うのですが、そういったようなマッチングなりネットワークなりを促進させていくような、この取組を契機とした市民団体間のネットワークをつくっていくような、そういう組織化をしていくみたいなことの可能性というのはいかがでしょうか。つまりそのような組織化を推進するネットワーク組織を住民活動団体参加型で一緒につくるといいますか、そういったことというのは担当課、あるいは、まちサポさん、双方、十分考えられるのでしょうか。できそうな可能性はあるのでしょうか。要は、市民団体が、相互につながるようなネットワーク組織を立ち上げるというような感じですね。そういった可能性というのはあるのでしょうか。

そのような枠組があれば、そこの調整をしていくと、今言ったような、ステップさんがこんな状況で、まんぷく食堂がこんな状況で、コラボできるよねというような、そんなようなことをより一層やりやすくなるんじゃないかという気が非常にしているのですけれども、どうなのでしょう。

○事務局 ありがとうございます。今、頂いた御意見については、まず基本的に、まちサポが団体同士をつなぐ、あるいは市民と団体、あとは行政のほうにつなぐという役割有しているというふうに考えております。

ただ、それが現状満足いくようなところまで至っていないというのはあるのかなと思っておりますので、まちサポのほうで、今後はそういうような形でマッチングのほう、どういう形になるのか考えていきたいと考えております。

○委員 ありがとうございます。

私、経験上、それは行政組織で一元的にやろうとすると、かなり大変なので、協議会か何かを立ち上げて、当然ながら市当局のほうでも、ハブの調整とか事務局調整はするのですけれども、市民団体の方でも、それぞれ得意分野で組織運営の音頭を取っていただきながら進めていくという、そんなやり方があるかと思います。そうしないと、行政側の負担が結構大変じゃないかなという気がします。そんな可能性なんかも考えられるといいんじゃないかなんていうふうに、すみません、経験上ちょっと思ったところです。どうぞよろしくお願いします。

○委員長 ありがとうございます。

●さん、どうぞ。

○委員 それに関連しまして、私も今まで何回か会議をやってきて、一つは、この補助金の目的は、できるだけ多くの団体に補助金を回すということで、一つの団体が長くても、一つの企画で3年までということです。ですから、どんどん、これはできるだけ呼びかけて、いろいろな団体を援助していくということが一つポイントになると思うのですね。

もう一つは、今関連して出てきている、今まで補助金を受けてきた団体が、3年過ぎると補助金がなくなるということです。活動に自主財源というか、そういうものが必要になってきたときに、他の団体とコラボというか、協力することによって、資金不足が解決されることもあります。こういうところに必要なものは、この団体と協調すれば、資金が無くても済むという関係です。そういう意味で自然にお互い結びついていくような、そういうシステムが自然にうまくできればいいと思います。その辺のところを推進させていくというのも、一つのこれからの大事な仕事ではないかなと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。別に、このテーマに全員御発言いただかなくても大丈夫です。どうぞ、お願いします。

○委員 ●です。資料1の最終ページの数行のところなのですが、私は前回の会議で、申請団体がこの2、3年減っていると。31年度は13団体で、その後が半分以下に激減しているので、コロナの影響もあろうかと思いますが、ゆくゆくこの辺の傾向を注意していただきたいということを発言いたしました。

それで、この申請団体の数以外に、今この表を見ると、29年度から令和3年度まで5年間、合計見ると、予算額が530万で、確定額が229万3,000円なのですね。パーセントにすると43.3%ということは、予算に対して、確定額が50%切っていると。これ、だからといって予算を減らしていいというのではなくて、市としても、もっと活発に、こういうような補助金システムがあるということを分かりやすく周知広く徹底していただきたいというのがお願いでございます。

それからあと、予算の申請方式が、例えば延長可能とか、継続的なものとか、そういうことも含めて見直しして、できるだけ予算に近い形で、多くの団体が申請されて採択されるように、市民活動支援課さんも目配りしていただきたいというのが私の希望でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

どうぞ、●さん。

○委員 資料1の4ページの上のほうの枠で囲っている活動促進型のところを見ていて感じたのですが、31年度に促進型9団体、令和2年度は4団体となっていますが、非常に多くて、次からぐっと減っているわけですね。31年度の9団体のうちの採択4団体で、これは恐らく、予算の上限に達したので切られたところが多いんじゃないかなと見るのですけれども。不採択となった団体が、次にまた応募して出しちゃうのか、次の年のは、新たな団体が促進型に募集されたのかなと。ただし、不採択となった団体が、もし、もう駄目だと諦めて、次に募集されていないと、非常にもったいないと感じたところでございます。不採択となったところが、次に再チャレンジするのを例えばまちサガ等で支援していただけると、1回チャレンジしてくじけた団体さんも、またやってみようかなという気になるんじゃないかなとも、この表を見て感じました。

実際、1回申請して不採択となって、次、申請されていないところがどのくらいあるかというのは、何か把握していらっしゃいますでしょうか。

○委員長 分かりますかね、この点。

○事務局 お答えとしては、今、手元でお示しできるような数値だったりというのはないのですけれども、事務所に戻って調べてみれば、受けて駄目だった団体というのも把握はできますので、それを積み上げていけば、お示しすることはできるかなと思っています。ただ、今はございません。

○委員長 あと、私からもコメントさせていただくと、とにかく何でもコロナのせいにしたくはないのですけれども、31年度は私も覚えているのですが、審査がすごく大変だったので、いっぱい申請いただいて、計13だったか申請いただいて、その後の年からコロナなのですよね。やっぱり段差が非常に大きく見えてしまうのは、ダブルの効果がもしかしてあるかもしれない、変数として。そもそも、1回チャレンジしたけれども駄目だった、じゃあ、もう諦めようという団体さんもいらっしゃれば、プラス、コロナの影響で、それどころじゃないよというのもあって。非常に31年度を機に急降下みたいなのに見えてしまうのですけれども。そこは、いろいろな要素が加わって、この結果にはなっているというところは、皆さん御認識いただいたほうがいいのかないかなという気がしました。

ほかいかがでしょう。

●さん、どうぞ。

○委員 ●です。前回、私、御参加させていただかなかったので、どういう流れかが分からないというお話で、思って聞いていたのですけれども。

資料3の情報発信の仕方とか、情報の共有のツールのヒアリングをしたことに関しては、すごくここは聞いてみてよかった項目の一つだなと、この全体を読んで思っていました。

L I N Eを使われているというところがやっぱりいいのかなって。簡単ですし、皆さんに一斉に情報発信できるしというところがあるのかなというところを感じたのと、それをヒアリングから、このオンラインツールの活用の勉強会が2月というのが、すごく早い段階で対応できていらっしゃるので、すごくいいなというふうに思ったのと。

ただ、今回は、L I N EとG o o g l eの使い方ということでお話があるみたいなのですけれども、例えば、今L I N Eであるというところは、今のメンバーの中でL I N Eの活用をされているというのはいいいのかなというところなのですが、申請ができるんだよという間口を広げるという意味では、L I N Eもいろいろ告知としては使えるんだとは思いますが、この後も、どんどん違うSNS等々、こういうオンラインのツールが出てきてはいるので。

今、私の会社的に、私は会社に行っているのですけれども、その会社のやり方としては、今メインはTikTokを使っている感じなんですね、やっぱり若い方。私、不動産なので、L I N Eもちろん活用をしています。Twitter、facebookよりは、今は若い方がどうしてもTikTokで。去年の流行語にも多分入ったかと思うのですけれども、タイムコスパ、時間をコスパをかけずに情報を得るというのが、やっぱり今の若い方のメインかなというところで。うちの会社の集客のやり方としては、インスタとTikTokをメインにやっています。

なので、こういう行政がTikTok立ち上げましたというのがいいのかどうかというのは、私は分からないのであれなのですけれども、間口を広げる。若い方も多分、今後若い方にだんだんボタンタッチをしていく。今、御年配の方が運営されているところも、若い方にボタンタッチをして、この市民活動を続けていくというところが、多分長くやっていける方向になるのかなというところもあるので、団体さんを知ってもらおうという意味では、そういうTikTokとか、若い方が見るものにシフトして、そこもちょっといいのかなというのもあります。

最近、テレビとか見てもそうですけれども、次はメタバースに力を入れていらっしゃる会社さん、次に移行していこうとか、やられているところもかなり増えてきているのかなという印象があるので。今回は、取りかかりとしてはL I N E、G o o g l eというところの基本的なことというの、すごくいいと思うのですけれども、今後はそういう発展していけるような内容で、引き続き、継続的にこういう催しをやっていただければいいのかなというふうに、私の感想ですけれども、ちょっと思いました。ありがとうございます。

ざいます。

○委員長 何かありますか、コメント。よろしいですか。

どうぞ。

○事務局 ありがとうございます。まさかTikTokが出てくるとは思いませんでした。

まちサポでも、今までfacebook活用法ですとか、ホームページってどうやって作るのか、あと、デザインアプリでチラシを作ってみよう、ポスター作ってみようという講座を、団体さんの育成サポートとか、広報発信力強化の講座ということで、年に1回、いろいろ内容を変えてやってきました。

今回は、団体の運営の中で情報共有とか、なかなかメールと電話だけじゃつらいから、やっぱりLINEって、みんな使えるからいいよねというお話が調査のヒアリングの中でも出てきたので、じゃあどうやって実際LINEグループとか、LINEのノート機能とか、どうやって使っているのというのを参加者皆さんで話し合ったら、何か盛り上がるんじゃないかということでLINEにしました。

あと、イベント運営されている団体さん、参加者が50人、60人になってきた。一人一人にLINEで連絡をするのは大変という声もあったので、そこはLINE公式というのが結構、市民団体も使える便利な情報発信ツールだよということで。1回参加してくれた方に、継続的にファンになってもらうというアプローチで、LINE公式を今回は、しろいdeあそ部の代表に使い方を教えてもらおう、見させてもらうという内容にしています。

ということで、あとはイベントも、今メールで申込みというよりは、QRコードでピッとやって、フォームで参加申込みという形が、皆さんスマホを持っているので、主流になってきています。なので、そういうQRコードとか、ちょっとやったことないわという声もありましたので、そこは皆さん、ちょっとチャレンジして、使えるようになって、イベントたくさん来てもらえるようになりましょうということで、今回こういう内容にしています。

やっぱり情報発信というところの形は、どんどん時代によって変わってきますので、なかなか市民活動って、思いがあるというところをどうやって絵にしてとか、文字にして伝えるかというのがやっぱり大事なところになってきますので、そういうところの効果的な情報発信方法は、講座なり勉強会なりで今後もやっていけたらいいのかなと思っています。ありがとうございます。

○事務局 私のほうから。お伝えそびれてしまったのですが、このオンラインツールの勉強会というのは、先ほどのヒアリングの団体の中でそういった意見が上がって、開催にというお話とともに、その講師となる人間も、ヒアリング団体の中で一番そういったものに長けていた、しろいdeあそ部の団体の代表の方が講師としてやっていただくというようなこともありますので、団体間の、先ほど来、意見ありましたが、連携強化みた

いなものやっっていければなとも思いますし、情報発信の方法、今、委員の御意見、先取りじゃないですけども、次世代につなぐために若い人たちを取り込む。そのためには、その世代が使っているものをどんどん先取りして発信していくというのも大切なのかなと、今、御意見聞いていて思いましたので、そういったことも踏まえて、勉強会をまずは進めていければなと思っております。以上です。

○委員長 マーケティングの会社の調査とか見ていただければ、世代によって、SNSもツールが違うというのは、これ如実に出ていて。我々、ここにいる世代は多分、Twitter、facebook、やっていてそこまでじゃないかなと私も思うのですけれども。おっしゃったとおり、若い世代は、もうTwitterとかfacebookとかやっていませんから、TikTokとインスタというのは、これは定番の事実なので。それだったら、そういう形で、このぐらいの世代ならTwitterとfacebookでいいけれども、もっと若い世代にリーチしたいのだったら、やっぱりそれだと駄目だよねという。それはしっかり考えていただきたいなとは私も思いました。

でも、この企画自体は、すごく皆さんおっしゃるとおり、すばらしい。プロセスもすばらしいし、内容としても私もすばらしいと思いますので、ぜひ盛況になるといいなと思いましたということです。

●さん、挙げていらっしやいましたっけ。

○委員 ありがとうございます。もうSNS、完全に私、取り残されているなと思いながら話を聞いていたのですが。

一番初めのほうに出ていました申請が、公金、書類が大変だとか、プレゼンがあるので大変だとかいうような話があったりですとか、でも、公金を使うのだから、それなりのことはやってもらわなくちゃいけないよということで、私も大賛成です。まちサポのほうで、この申請書の書き方のレクチャーをしていただいたりですとか、プレゼンのちょっと練習してみたらどうかというの、最近ずっとやっただいていますので、間口を広げるということでは、いい活動なのかなと思いますので、今後も続けていただきたいなと思います。よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。おおむね皆さんコメントいただきましたので、休憩なしでもいいですか。大丈夫ですか。

そうしたら、この調子で資料4からの御説明も続けてお願いできますか。

【事務局説明】

○委員長 ありがとうございます。後半のほうは、特に資料の6については、これは基本的に、我々市民が読む向けじゃなくて、自治体の事情を分かっている方が読む向けに佐

賀市さんがまとめてくださったものを、そのまま生でお渡ししていますので、公募市民の方とかが読むと、何じゃこりやみたいな話もあるかもしれないのですが、大枠は、資料5で抽出していただいたような形で、概要として書いてあります。佐賀市のアンケート結果については、細かくやるときりがないので、あくまで白井市の補助金を考える上でというところで、聞かれても分からないというのものもあるかもしれませんね。まとめた情報じゃないのでというところはあると思いますので、そういった意味で何か感想というか、コメントというか、自由にまたお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

委員、どうぞ。

○委員 少々専門的な資料も出ていたので、提案ですね、私のほうからちょっと口火をというふうに思います。

最初に、資料の6の、非常に興味深いなと思って見えています。これは3ページの制度導入の効果として幾つか上がっていて、分析としては、多様な部分にわたっているという、そういう分析をお話ししてもらいましたが、とはいえ、一定の傾向は見られると思うのです。

特徴的なものとして、一つ目としては、新たな市民活動団体の立ち上げにつながったというところですね。それから真ん中辺りですかね、団体関係で活動を通じて他団体との連携・協働などができたというふうにあります。活動を通じて他団体との連携・協働などができたというのは、補助金を使って採択を受けた団体が、その採択事業を通じて、他団体との連携・協働が高められたという、そういうような意味合いでよろしいのですかね。ところではないのかもしれませんが

○事務局 すみません、正直この表の中身については、私もアンケートを実施した身ではないので把握はできないのですけれども。

ただ、アンケート項目が、これすごいアンケート項目あるのですけれども、これを自由回答でこちらが書いて出したというものではなくて、佐賀市さんのほうであらかじめこのアンケート項目が全部出っていて、その中からチェックをして選ぶような形になっておりましたので、そういった意味では、佐賀市のほうである程度こういった効果がというのを見込んで記載をされていたものであることは、アンケート回答しているので把握はできるのですけれども、それ以上のことは、分らないです。

○委員 ありがとうございます。そうすると、先ほどの議論ともひもづけると、こういった市民応援の補助金というものが団体間の連携・協働を深めるという効果がやっぱりあるのだなというふうに改めて感じるところなのですね。

さらにちょっと深読みすると、団体間でコラボをすると、新しい団体が出来上がっていく傾向があるとみることができるのですね。既存の活動者がつどって、コラボして新たな取組みのために新しい市民団体を立ち上げようというケースは、かなり頻繁に起こりやすくなる、そういった連動性はあるのかなというふうに思うのですね。そうすると、先ほ

どのちょっと申し上げたような、市民団体主体のネットワーク組織の立ち上げを推進していく、組織化を推進していくということは、市民活動を推進する上で、非常に有効な手段じゃないかなと思うのです。市民団体のつながりを深めることを市民活動者と共にやっていくことで、意欲を引き出し、参加型民主主義を推進していくというのがすごく重要な機能だと思いますし、市民活動推進委員会においても重要な機能だと考えるところではないかと思うのですけれども、そういった部分の拡張を促進できるのではないかと思います。

当然ながら、市当局では心配なところも出てくると思うのですよね。市民団体間で連携が深まってくると、もともとの行政事業の趣旨の思惑を超えた、いろいろな動きも出てきてしまうのではないかなというのも心配事項に出てくるかもしれません。しかしそれはそれで、むしろ逆にいいことなのではないかと捉えることもできます。市民連携の中で様々な市の思惑を超えるような取組が、もしそういったネットワークの推進の中で出てくれば、行政側もそこから学んで、また新たな施策を検討することができるので、そういう意味では、結果的にはいいことだと思うので、そういった方策を積極的に考えていくというのは可能性が見えるんじゃないかなと思うのです。

それから、助成金制度において、コラボ部門の補助の仕組みがあるというのは、非常に面白いですね。私も今、大学の研究だとか、教育研究でも、助成金申請する際に、他機関と連携して取り組むと、補助金の上限が高まるのですよ。例えば、多様な他分野で連携して、研究者だけでなく事業者とも連携してやると、大きな金額の枠で取れたりとかするのです。市民活動の中でも、一定程度、そういったコラボ部門的なことというのはあり得るのではないかと思います。その辺は、今回の資料から深堀していても面白いんじゃないかなと思った次第です。

最後なのですが、この補助金にかかわる調査は、かなり意味があるし、面白そうなので、せっかくこういった委員会がありますので、委員会では、今年度は補助金の採択に当たって審査のチームをつくりましたけれども、この手の調査事業を行政の担当で、今回、事務局さんにかかりやっていたいただいていると思うのですけれども、委員でもチームを編成して、一緒に調査分析をしていくというようなことがあっても面白いんじゃないかなというふうに、委員長、思いました。すみません、委員長向けにもちょっとコメントいたしました。

以上です。

○委員長 ごめんなさい、こういう調査を白井市としてもやったほうがいいということですか。

○委員 ええ、やったほうがいいと思いますし。

○委員長 他市向けにということですか。

○委員 他市というか、こういう分析調査の検討を。

○委員長 これは多分、相当なコストがかかっているのです。

○委員 はい、ですのでこういったもの既にあるので、この素材を。

○委員長 これを分析しようということですよ。

○委員 そうです。これをベースにして、補助金の調査分析というのを、情報を集めて、この委員会でも、事務局さんと一緒に分析をしたり、意見交換をしていくというようなチームをつくっても面白いのではなかろうかと、そういう趣旨を。

○委員長 分かりました。安心しました。

○委員 これを市からやろうとすると、かなりコストがかかるかと思いますので。

○委員長 これが多分、後で私も佐賀市に聞いてみようと思いますけれども、相当な時間とお金がかかっていると思いますので。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 この表を見ると、千葉県の近隣の市と比較すると、私、先ほど申し上げた公募回数ですね。白井市は3回と。これを見ると、上限なしというところが、千葉県で市原市、八千代市、市川市、それから柏市と。それから、松戸市が2回。それから、3回は白井市、鎌ヶ谷市、浦安市と様々なのです。

私、先ほど言いましたように、予算に50%も満たないという現状を考えて、もう一度、よく、3回というのは、改めて考える必要があるのではないかと。

例えば、上限なしとしても、4回目を約束するわけでも何でもないわけですから、3回という区切りをやると、多分やる意味は、できれば3年たったら自立してほしいと。いわゆる離陸してほしいと。これ自治会でもそうなのですから、ある程度自己資金、あるいは自己調達、自主努力を促すための離陸をするための交付だと、僕はそういうふうに理解しているのですが。それは、逆に言えば、補助金を3年もらうと、その財務体質に慣れちゃって、自主努力の道を探すことが困難になるのです、はっきり言って。だから、これはもろ刃の剣なのですね。だから、それをどういうふうにとらまえるかという問題が出てくると思うのです。これ3年やって、3年続けて、その後4年目以降、団体はどうなったのか。赤になって、もうやめちゃうのか、本当に自主努力でやっているのか、その辺をきちっと追跡調査しないと、この3回という交付回数がいいのかどうか。先ほど言いましたように、上限なしでやったって、4回目以降、また新たな物差しで見ればいいわけであって、これはもう予算をいっていない現状を考えれば、改めて考察する必要があるのではないかと私は思います。

○委員長 ありがとうございます。コメントありますか。

○事務局 少し次のというか、今日の事務局として。

○委員長 その話はまだ大丈夫です。その話に進むなら、もうちょっと意見を頂きたいので。

○事務局 分かりました。

○委員長 ほかの方がいかがですか。気づいたこととか感想で構いませんけれども、よろしいですか。

●さん。

○委員 感想でよいなら。数字が弱いので、数字をいっぱい見ると訳分からなくなるのですけれども。お母さんの一般的な言葉で、うちのうち、よそはよそって言葉があるのですけれども、そのための何か、何でうちはこうなんだというような理詰めで子供に聞かれたときに、答えられるような何かであればいいななんて思いました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。そのとおりで、こののっぺりした表にされちゃうと、紙の視点で見えますけれども、それぞれ、もちろん白井市には白井市の、それぞれ他市には他市のポリシーとか、考え方とか、首長の思いだとか、担当課の考えだとか様々なものがあるのですけれども。アンケート調査のいいところであり悪いところは、2次元の紙にされてしまって、見るだけという。何かストーリーとかが絶対あるはずなのですから、それぞれの制度に込められた思いとか、あんまり私は。もちろんこの分析は、先ほど●さんもおっしゃっておられて大事なのですけれども、でも、これはあくまで参考にしつつ、白井市の市民活動、今後どうしていきたいのかという思いのほうを重視したほうがいいのかなと思っていますし。

あんまり私が結論めいたことは言いたくはないのですけれども、●さんの言葉を借りて、市民活動の専門家からすれば、NPOの、まだいいほうで平均的で、偏差値とかにしたいくはないのですけれども、55ぐらいはあるわけですよ、現時点でも。そんなに悪くはないし、取り立てて、70、60で超天才ですという感じではないのかもしれないのですけれども、別に6万人都市として恥じることは全くないし、現場が、先ほどの話じゃないのですけれども、市民活動団体、NPOの方々も、私は●さんの言葉なりは感動しましたけれどもね。なかなか、うちは補助金要らないから、ほかの団体さんに回してくださいなんて言えませんよ。なかなかすばらしいなと思って。東京のほうとかにいと、本当にお金にがめつuitといったらあれですけれども、我を我をとって、補助金取るのが楽しくなっちゃうような団体さんもいる中で、限られた財源を少しでも有効に使っていこうという、こういう、つつまじやかといったらいいのか、謙虚な姿勢というのは、本当に、むしろ困っているステップさんのために、自分の団体として何ができるかというコメントなんていうのは、本当に立派だなと思いましたということは、最後に言わせていただきたいと思います。

ほか、よろしいですか。

よろしければ、事務局からの御提案というのがあるようなので、お聞きしたいと思います。

○事務局 ありがとうございます。両委員の御意見だったりというのは、実は事務局も

感じておりまして、前回皆様に調べてほしいといった宿題を回答をしていくに当たって、当初、事務局として思っていた要綱改定、特に金額を増やすとかといった内容につきましては、市民団体に直接有意義な取組になり得るかというのが、現時点では正直分からないのかなというのが。もっと言えば、詳しく調査は必要ではないかというのが、この資料をそろえていく中で感じました。

また、この資料6の調査結果ですけれども、同じような課題を持っていて、一方、補助の取組というのは、1メニューから、先ほど紹介させていただきました6メニューまであるような自治体があって、取組というのは様々。つまりは、対応としては、より各自治体、自分の自治体に即した取組にしていく必要があるのではないかと。委員がおっしゃっていたように、うちはうち、外は外じゃないですけれども、もっと市の団体について、より詳しく調べていったほうがいいのではないのかというのが一つ。

あと、これは委員長と事前に打合せをさせていただく中で、少し委員長のほうからもアドバイスあったのですけれども、要綱というのを頻繁に変えてしまうというようなことは、かえって団体に混乱を生じさせるといったような可能性もあるのではないかとというように。

以上の状況を踏まえまして、事務局として御提案をさせていただきたいのは、本日の会議並びに次回3月9日、会議あるのですけれども、その会議ですぐに要綱の変更といったようなものを検討するのではなく、まずは、この登録団体へアンケートの実施を提案をさせていただきたい。3月9日については、まず事務局のほうでアンケート調査のたたきみたいなのを作成し、御提示をさせていただきますので、そちらを御確認いただくような会議とさせていただきたいというのを御提案をさせていただければというふうに考えております。

ですから、委員がおっしゃられていたような、団体はどれぐらいの活動費で事業を行っているのかということも、現時点では、事務局のほう、正直把握をしておりませんので、そういったものもアンケート調査で把握できればと思いますし、今意見の中でありました、団体が、市の補助金を受け終わった後に、民間の補助を受けているのかということも、そういったアンケート調査で確認をさせていただければと考えております。

事務局からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。

というわけで、事務局さんからの御提案としては、今回、前回の宿題に答えていく中で、試しにグループインタビューとかもやってみたら、これまでの仮説として持っていたこと以外にも様々なことが分かってきたので、当初の予定では、令和5年度分から、いろいろ変えられるものは変えていこうみたいなお話あったのですけれども、先ほどの佐賀市のアンケート調査からしても、全国平均からしても、そんなに白井市の制度が劣っているわけでもないわけですので、令和5年度分については、そこまで。もちろんできる改善は

したほうがいいのですけれども、大がかりな改革というか変更はせずに、もうちょっと検討、何を変えるかとか、何に実際現場の団体が困っているかって調査のほうに時間を使いましょうという御提案だということ。

その具体的な方策として、ちょうど御説明なかったのですけれども、まちサポの登録を毎年更新していくに当たって、まちサポの登録団体さんに、今年もとか、来年度も登録しますかみたいなものを送るのですよね、全団体さんに。そこにアンケートも同封してやれば、回収率も上がるのではないかというアイデアがありまして。

それをもって、まちサポ登録団体さんの財源、何を財源としているのかとか、どんなことに困っているのかとか、あるいは今日出てきたような、例えばどんなITツールを使っているのかとか、関係性の確認もしたいのだったら、例えば、日常どんな団体と付き合いがあるのか、白井市ないしは市外の団体で、どういった団体の情報を頼りにしているのかとか、そういうのをちゃんと聞き出せば、すごく白井市内の市民活動のネットワーク分析とか、それこそ●さんとかの専門かもしれないのですけれども、そういうのもやろうと思えばできるというのを、社会資本の分析とかもできちゃうような素材は集まるというようなこともありますので、取りあえず、そういう方向でいかがですかという御提案になっています。

私も、そういう方向がいいのかなとは思っているのですけれども、皆さんから、ぜひやれというのでもいいし、いやいや、それはあかんやろというのでもいいのですが、何か感想あれば。具体的な内容は次回やりますので、現時点では、ゴーするかNGかという話なのですけれども。

●さん、どうぞ。

○委員 ぜひ推進していただければと思います。賛成ですし、そういう方向でやっていったほうがいいと思うのですね。

当初、今回の検討に当たって、想定していたのは、活動の補助金額の規模感というのが妥当なのかどうかというのは、ちょっと心配していたのですけれども、結論的には妥当な感じだったかと思います。委員長も、この点は、そのようにおっしゃっていたと思うのですけれども。とするならば、要項変更に関しては、そんなに緊急性を要するようなことではないと思います。それよりは、制度のもうちょっと趣旨、理念だとか、活用した団体さんのその後の展開をどうサポートするのかだとか、そういう本質的で大枠のところなんかを含めた議論ができたほうがいいだろうと考えると、調査にかかわる検討が重要かと思います。調査そのものが各団体との意見交換の機会を創出するところにもつながると思いますので、それそのものが市民活動の推進づくりなのかなという気もします。

調査設計のお話は、多分3月なのだと思いますけれども、例えばアンケートをしかけたり、あるいはこのような特徴的な団体だとか組織がヒアリング調査をしたいとか、グループフォーカスしたいな、フォーカスヒアリングしたいなということが出てくるか

と思います。そういった場面で、また我々委員も混ぜていただいて、調査に加わらせてもらえれば、より一層いろいろな意味のある活動になるのかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。ぜひ、やるべしということだということで。

ほかの方もいかがでしょうか。

○委員 賛成です。

○委員長 ということで、それでは、今御提案のあった方向で、まちサポ登録団体様、まずは第一弾としては、私もそれが合理的だと思います。

ただ、先ほどの●さんの話じゃないのですけれども、それだと当然、抜けますよね。まちサポ登録していない団体が調査対象から漏れるわけですので、そこは、とはいえ、じゃあどこまで広げるのかという問題がありますので。それは3月9日の時点までに、別に無理にやれとは、私の立場からは言わないですけれども。もし、そんなに手間暇かけずに調査対象が広げられるような方策があるのであれば、この際というか、まちサポ登録団体も増やしたいわけじゃないですか、基本的には。この機会にまちサポに登録しまへんかという営業も兼ねて、何かそういう、例えばさっき出たボランティアセンターとか、社協とか、よく分かりませんが、そういった何か登録システムがあって、一斉にメール送信とか郵送ができるのであれば、この機会にまちサポの営業をかけて、何か関係性をつくるというのも一つの手なので。そこは、まず絶対マストは、まちサポ登録団体。その他どこまで広げるかは、ちょっと検討していただければと思います。

ほか、いかがでしょう。大丈夫ですかね。

そうしたら、取りあえず今回の補助金の検討の方向性としては、もうちょっと調査を試みようということをお願いできればなと思います。